

# 令和6年度学校経営計画書

学校名 吉舎小学校

校長名 次川 麻美

## I 学校の状況

|            |                                       |        |    |      |    |
|------------|---------------------------------------|--------|----|------|----|
| 学級数        | 8                                     | 児童・生徒数 | 95 | 教職員数 | 20 |
| メールアドレス    | kisa-e@city.miyoshi.hiroshima.jp      |        |    |      |    |
| ホームページアドレス | http://www.school-e.hiroshima-c.ed.jp |        |    |      |    |

## II 教育目標

吉舎中学校区小中一貫教育目標

学校教育目標

「自ら学び、考え、自立した行動ができる『きさ』の子ども」の育成  
～楽しく（主体的な学び・深い学び）学び、人を大切にする児童の育成～

## III 使命・存在意義（ミッション）

### 1 ミッション

- 子供の命を守る（生存権の保障）
- 子供に生きる力をつける（学習権の保障）
- 子供も教職員も幸せになる（Well being）

### 2 ビジョン ～愛で笑顔あふれる学校～

- 知・徳・体の「基礎・基本」を身に付け、社会でたくましく生きる力を育てる学校
- 地域を愛し、誇りに思い、地域と協働し、より良い社会を築く志を育てる学校

## IV 重点事項（努力点）

吉舎中学校区小中一貫教育 研究テーマ「表現力の育成」

重点資質能力 「主体性」「コミュニケーション能力」「志向性（なりたい自分に挑む力）」

3本の柱 授業づくり 習慣づくり 信頼関係づくり

めざす児童像 「自信を持ち、他者と協力して、よりよく生きようとする児童」  
～すきさ すてきさ ほんきさ 吉舎小～

## V 中心価値・行動規範

「学校に関わる人の いのち輝く 吉舎小学校」

- 法令等を遵守します。
- 人権を尊重します。
- 組織の一員を自覚し、信頼し合うチームとして取り組みます。
- 教職員として主体的に学び続ける姿を子どもに示します。（大胆にして、プロであれ）
- 児童が主体的に （楽しく） 学ぼうとする「授業づくり」をします。
- 仕事を通して、児童・職員の幸せをめざします。

## VI 現状分析

SWOT分析等（別紙「学校経営環境分析書」参照）

# 令和6年度 学校経営環境分析書

## 学校の内外環境の分析

|      |  |  |      |   |
|------|--|--|------|---|
| 外部環境 | <p><b>O (支援的要因)</b><br/> <b>【地域】</b><br/>                 ○<u>地域の方のボランティア意欲や学校愛が強い。</u><br/>                 ○人・自然・物(史跡, 博物館, 図書館等)に恵まれ, 比較的近距离に保・小・中・高がある。<br/>                 ○<u>豊富な人材による地域学習が可能である。</u><br/> <b>【市教委】【県教委】【国】</b><br/>                 ○人的配置(教務事務補助員等)<br/> <b>【保小中高連携】</b><br/>                 ○吉舎中学校区小中一貫教育の推進にあたり, 校区内の体制が整っている。<br/>                 ○合同研修会を通し, 学力向上の取組の成果がある。</p> | <p><b>S (強み)</b><br/> <b>【学校】</b><br/>                 ○<u>仕事にやりがいと幸せを感じる教職員が多い。</u><br/>                 ○<u>建設的に意見を述べ合い, 協働する組織文化ができつつある。</u><br/>                 ○<u>児童理解が進み, 頑張りを認める, 個に応じた指導に取り組んでいる。</u><br/> <b>【児童生徒】</b><br/>                 ○素直である。<br/>                 ○<u>異学年間のつながりがある。</u><br/>                 ○肯定的評価を受けるとやる気になる。<br/> <b>【保護者】</b><br/>                 ○授業参観の参加率が高い。<br/>                 ○PTA活動等を核になって取り組む保護者がいる。<br/>                 ○保護者との連携を密にすることで, 学校に対する信頼が向上しつつある。</p>   | 内部環境 | <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"><b>支援的要因と強みを生かした活動・取組</b></p> <p>○<u>地域人材を積極的に活用した授業づくりと体験活動の充実</u></p> <p>○<u>協働による授業づくりの改善</u></p> <p>○<u>個別最適な学びの試み・家庭学習の改善</u></p> <p>○保・小・中・高の連携</p> <p>○目標の明確化と共有化を図り, 吉舎小中一貫教育のさらなる充実を図る。</p>   |
|      | <p><b>T (阻害的要因)</b><br/> <b>【学校】</b><br/>                 ○校舎の造りが複雑で, 死角が多い。<br/>                 ○<u>校舎が老朽化し, 修繕する箇所が多くなっている。</u><br/> <b>【地域】</b><br/>                 ○校区が広く, 4つの地域(敷地, 吉舎, 中四字, 安田)に意識・まとまりの温度差がある。<br/>                 ○バス通学→時間的制約<br/>                 ○高台にあるので地域の方が頻繁に足を運びにくい。<br/> <b>【市教委】【県教委】【国】</b><br/>                 ○児童数減少による人的配置の削減</p>                                   | <p><b>W (弱み)</b><br/> <b>【学校】</b><br/>                 ○生徒指導力に差がある。<br/>                 ○<u>主体的な学びにつながる授業構成の難しさ</u><br/>                 ○<u>発達障害等, 学校生活に困り感を持つ児童への対応</u><br/> <b>【児童生徒】</b><br/>                 ○学力が二極化している。<br/>                 ○自己肯定感・自己有用感の低い児童がいる。(自己開示がしにくい。)<br/>                 ○人間関係形成能力<br/>                 ○挨拶がしにくい児童の増加<br/>                 ○自分の気持ちを丁寧に伝えていないことによる友達間のトラブル。<br/>                 ○発達障害等, 学校生活に困り感を持つ児童が増えている。<br/> <b>【保護者】</b><br/>                 ○家庭の教育力の差が大きい。<br/>                 ○保護者同士のつながりが希薄になる傾向がある。</p> |      | <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"><b>弱みを克服し, 阻害的要因を回避する解決策</b></p> <p>○組織として授業力, 生徒指導力を向上させるシステムの構築と実施。<br/>                 ○<u>人間関係づくりを重視した特別活動, 授業づくり</u><br/>                 ○生徒指導の三機能を取り入れた授業づくり, 生活指導。<br/>                 ○特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり<br/>                 ○「できる・わかる」授業の継続した実践。<br/>                 ○<u>個別最適で効果的な学びの模索</u><br/>                 ○あいさつ運動(地域とのつながり・豊かな表現・公私の区別)のさらなる取組。<br/>                 ○<u>PTA・CSを核として地域と共に皆の幸せを考えた取組を考えていく。</u></p> |